

# ニュー インターナショナルリスト

## 平和を模索する コロンビアの希望と不安



KEYNOTE

### コロンビアに平和は訪れるか

ショッキングな結果となったコロンビアの国民投票。人々は、50年におよぶ内戦の終結に向けた和平合意を否決した。それは、内戦への逆戻りを意味するのだろうか？あるいは、革新勢力が和平プロセスに新機軸を打ち出すことができるのだろうか？タチアナ・ガラベートが検証する。

もしもコロンビアの国民が、コロンビア革命軍（FARC）と政府との間の和平合意を承認しなかったら、コロンビアは底知れぬ絶望の淵の前に立ちつくすことになるだろう。主席交渉官にとってみれば、それは明らかなことだった。次善策は存在しなかったのだ。

そして10月2日の夜、和平合意への反対票が50.2%対49.8%の僅差で賛成票を上回った時、あたかもその絶望の淵が出現したかのよう

に思えた。

アルバロ・ウリベ元大統領に率い

られた和平合意反対キャンペーンは世論調査の期待に反し、過半数のコロンビア国民を何とか説得することに成功した。人々は、和平合意が反政府勢力に軽すぎる処罰しか定めておらず、和平合意賛成が正義の偽装になると言われて納得したのだ。

皮肉にも、和平合意への賛成票が最も多かったのは、革命軍の暴力によって最大の被害を受けた地域だった。そして、反対票が優勢だったのは、ウリベ元大統領の地盤である農村部であった。

国民投票の結果は、和平のために取り組み、合意に賛成票を投じた人々をあせんとさせるものだった。

しかし、人々はあきらめなかった。

国民投票の後、FARCの指導者ロドリゴ・ロンドーニョ（別名ティモシェンコ）は、和平は「憲法上の権利」であり、革命軍は和平合意に忠実に従うだろう、と発言した。

コロンビアのファン・マヌエル・サントス大統領は、両当事者は停戦を維持し、共働を続けることを確認

し、停戦は10月下旬まで延長された。

和平プロセス継続を求めて、コロンビア各地で集会が行われていた。また、サントス大統領は、政敵であるウリベ元大統領と、6年ぶりに会談を行った。歴史的な合意に向けた仲介が行われたハバナでは、さらなる協議のための準備が行われていた。また、国際社会も各種支援を申し出ている。

コロンビア国内では、長年にわたって和平合意の普及に尽力してきた革新勢力や女性、先住民、農民のグループが、再び和平プロセスにおいて役割を担うために組織化されていた。

これらの人々が私たちに気づかせてくれたことは、民主主義はただ単に投票によって実践されるだけでなく、国を文化という基礎の部分から変革するのであれば、路上で行動を起こして平和に向かって歩み続ける必要があるということだ。

### 身の毛もよだつシナリオ

内戦状態へ引き返すことは、身の毛もよだつシナリオである。コロンビア国民はその意味することを知りすぎるほど知っている。52年にもおよんだ西半球最長の武装闘争は、全国民の15%に匹敵する800万人以上もの人々に傷跡を残した。(1)

これは、アフガニスタン紛争での被害者数に匹敵するが、コロンビア内戦への国際的な注目ははるかに小さかった。

公式統計によると、28万619人が殺害され、700万人以上が国内避難を余儀なくされた。(1) それに加え、誘拐事件が2万9,000件以上、行方不明者が4万5,000人、地雷被害者が1万1,000人、拷問被害者が1万人、性的暴行被害者は1万3,000人に上っている。(1)(2)

人口比からみた女性の被害率は非

常に高い。シスマ・ムヘーという団体のクラウディア・メヒア・デウケは、「女性や少女たちは、紛争における武器であると同時に、コロンビア社会における最大の被害者です」と言う。

そして2016年の夏、3回の交渉決裂を含む4年間におよぶ交渉を経て、FARCとコロンビア政府は歴史的な和平合意に達した(詳細は下のボックス欄参照)。この革新的な和平合意交渉プロセスは、世界中の和平交渉担当者らから注目を集めた。(3)

### 武装闘争はいかに始まったのか？

コロンビアの危機は、今日もまだその影響が根強く残る植民地主義が根幹にある。その要因は、地主と上流階級が享受してきた政治力の独占、昔から続く貧困と汚職、そして

当然であるが国家的暴力である。

このような状況は、国内における3つの主要な武装グループであるコロンビア革命軍(FARC)、より小規模なゲリラ組織である国民解放軍(ELN)、右派民兵組織として知られるコロンビア自衛軍連合(AUC)の台頭を許した。AUCは公式には2005年に解体されたが、メンバーの一部はバクリムあるいはPDPGs(解体後民兵組織)と呼ばれる小規模犯罪組織として活動を続けている。

FARCの成り立ちは1960年代初頭にさかのぼる。当時、土地収奪に抵抗して戦っていた武装小農運動に、まず自由党が加わり、その後コロンビア共産党も合流して誕生した。この合流によってFARCは1964年、政府と対抗しうるゲリラ軍となった。

時代を一気に早送りするが、

## 平和への6項目

10月2日の国民投票に向けて、FARCとコロンビア政府の間では以下の合意が行われた。

### 1. 戦闘の終結

両者は停戦合意に署名した。FARCはすべての武器を国連に引き渡す。FARCの推定7,000人の戦闘員と1万7,000人の非戦闘員は社会復帰する。ただこれは、国民投票後は保留となっている。停戦期間は10月31日までに延長された。

### 2. 被害者への償い

50年にわたるコロンビアの内戦では25万人が犠牲となり、700万人を超える人々が国内避難民となっている。公正な償いを受け、真実を知り、戦争の再発を確実に防止できるように、平和のための特別法廷を設置する。ただし、これは暫定的な法廷である。サントス大統領は、免罪を意味するものではないと述べている。

### 3. 土地改革

内戦によって移住を強いられた農村地域の多くの人々に土地を分配するため、基金を創設する。農村部の貧困層に、土地、資金貸付、基本的サービスを提供することについては、政府とFARCの両者が合意済みだ。これを実施するには、何百万ドルもの資金が必要である。

### 4. FARCの社会復帰

FARCのメンバーは、再び社会の一員となる。組織は政治運動体となり、2018年の選挙に参加する。

### 5. 麻薬

政府とFARCは協力し、内戦を激化させた麻薬取引の撲滅に力を注ぐ。政府は、農民が違法な麻薬作物の栽培に手を出さずに生計が立てられるよう支援することを約束した。

### 6. 国民投票

和平合意は、コロンビア国民による国民投票によって承認される。だがこれは僅差で否決された。



コロンビア人たちは、歴史的な FARC—政府間の合意で示された平和の兆しを、逃さないようしっかりと握りしめている。

1984 年には武装解除に至る画期的な停戦合意が和平交渉を通じて政府と締結され、新しい左派政党「愛国同盟」が誕生した。

しかし和平への望みは、3,000 人以上の愛国同盟メンバーが殺害された事件によって打ち砕かれた。彼らは、政府治安部隊の支援を受けていた右派 AUC と関係する民兵組織によって殺されたのである。1990 年に停戦は終わり、その後新たな交渉が再開されるまでに 9 年を要した。当然のことながら、交渉当事者たちの間には信頼などほとんどなかった。さらに交渉目標は、「コロンビアを変革する」ための 100 を超える項目を含む野心的すぎるものであった。

2002 年、交渉はまたしても決裂した。この続けざまの失敗がウリベ台頭への道筋をつけた。ウリベは、FARC を撲滅するという公約を掲げて大統領に選ばれた極右政治家であ

る。ウリベが主導し、50 万人の警官と軍人が採用され、内戦は激化した。米国は、米国が行う「麻薬戦争」の一環として「プラン・コロンビア」という形で支援を行った。FARC は、最盛期には 2 万人の戦闘員を擁していた。(4)

公約を果たすことはできなかったウリベだが、彼の父親は FARC に誘拐されそうになった際に殺されている。内戦終結を成し遂げる代わりに、ウリベの政策は 30 万人以上の国内避難民を生むなど、記録的な件数の人権侵害を引き起こした。ウリベの戦略の失敗が、新たな和平交渉の機運を高めることにつながった。

#### 今回は何が違ったのか？

右派連立与党である国民統一党のフアン・マヌエル・サントスが 2010 年に大統領に就任し、和平交渉を支持する世論が強くなっていつ

たが、これは対立候補であった緑の党のアンタナス・モックスの存在が大きい。

ラテンアメリカでは、左派政党は選挙によって勝利を手にしてきたが、FARC は大きな敗北に苦しみ続けた。FARC は、軍事的な勝利は部分的なものでしかありえず、そのため政府が軍事的手段での勝利の追求をためらっていることを理解していた。また一方で、FARC が和平交渉に関与する政治力を持たないまま取り残される可能性もあった。

このような状況によって、2012 年にキューバの仲介で始まった新たな和平交渉への環境が整った。

以前は、FARC と政府が膨大な議題項目の一覧を前に交渉を行ったが、そこには社会の幅広い層からの参加はなく、内戦の被害者の声を聞くこともなかった。

今回交渉者らは、最も苦しんだ人々を交渉プロセスに含めるよう進



めていった。2014年 FARC と政府は「諸原則に関する宣言」を発表し、そこには犠牲者の権利である真実を知る、公正な裁きを求める、賠償を受ける、安全を確保することを守るという約束が盛り込まれた。被害者は60人が各自の体験を共有するために招かれた。

その代表団のメンバーのひとりで内戦を生き延びたロサリオは言う。「私は、子どもや夫や家族を失ったこの国のすべての女性の願いを背負っています。私たちは、生活を立て直し、子どもを育て、子どもたちにより良い未来を与えるために、私たちの家や土地の返還を求めます」

真実の証言を重視することによって、正義と免罪に関する幅広い議論がわき起こった。一般的なコロンビア人の物語と体験に焦点が当てられ、平和のための特別法廷と人権侵害を扱う裁判所が設置された。さらには、行方不明となった4万5,000人について究明するためのシステムも作られた。(5)

もう一つの重要な側面は、農地改革に光を当てたことだ。コロンビアは、包括的農地改革を経験していな

いらテンアメリカでは数少ない国のひとつで、これが反政府勢力の蜂起を引き起こした主要原因のひとつであった。農地改革は、FARC と政府が合意できた最初の重要政策であり、地方の開発に加え、小作農から成る農村と大企業との共存にも焦点を当てていた。(6)

合意の中で最も革新的な要素は、おそらくジェンダーに関する部分である。女性団体からの強大な圧力を受けて、FARC と政府は2014年にジェンダー小委員会を設置した。

この小委員会は、レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスセクシャル、インターセックスの権利の承認と保護が保証されるように、内戦におけるジェンダーの側面について調査を一任された。一方で、コロンビア中に張り巡らされた女性グループのネットワークは、これまでの和平交渉に家父長制が与えた影響と、内戦とその原因において家父長制が果たした根本的な役割にも人々の目を向けさせた。このネットワークは、和解のための取り組みを推進している。(7)

コロンビアの女性たちは、2015

年に「祖国を追われた女性たちの真実と記憶の委員会」を立ち上げ、国境を超えた活動も行ってきた。並行した取り組みとしては「先住民女性の全国委員会」があり、和平協定が先住民の文化と土地に関する自律性を認め、社会的包摂〔訳注：国民ひとりひとりを社会の構成員として排除せずに含めること〕と人権のためのプログラムを支援することを保証するために取り組んだ。

### 今後の行方

「私たちには暗い日々が待っています。しかし、いつか平和を成し遂げるためには、それにきちんと向き合わなければなりません。和解し、許すことは難しいことですが、不可欠なことなのです」。こう話すのは、ジャーナリストで人権を擁護し、右派民兵グループの性的暴力から生き延びたジネス・ベドヤだ。

未来へ進むには、自分たちの過去を見つめなければならない。内戦の根本原因を明らかにする和平プロセスに関与するすべての人々にとって、それは非常に重要なこととされてきた。武装闘争を始めた人々を単に批難する代わりに、私たちは彼らを理解しようと努める必要があるだろう。平和は結局、衝突している各グループのメンバーも人間であるという認識なしには成り立たない。これは、過去の犯罪を無視する、あるいは忘れるべきだということではない。正義は継続して追求されるべきである。しかし前に進んでいくためには、不信感、恐怖、怒り、嫌悪によってたかれた傷口を、徐々に治していかなければならないのだ。

FARC の指導者ティモシェンコが内戦の被害者全員に対して謝罪した時、彼は喝采と賞賛で迎えられた。



キューバのハバナでラウル・カストロの仲介により歴史的な握手を行った、サントス大統領と FARC の指導者ティモシェンコ。

彼は、「内戦中に、我々が引き起こしたすべての苦しみについて、私は許しを請いたいと思います」と述べた。この癒やしと理解のプロセスは、コロンビア人が一緒になって取り組み、話し合い、学び、さらに最も重要なことは、団結して創造する場合にのみ成功を収めることができるのだ。コロンビア人は長期的には、戦争と恐怖を、思いやりと共感と寛容さに置き換えて真の変化を成し遂げる力を持っている。

いかなる和平交渉も苦労の連続である。しかし、平和の敵が政治的な目的を隠して有害なプロパガンダを使用すれば、交渉は別の展開を見せる。国民投票の翌日ウリベ元大統領は、男性が爆発物を首に巻いている13年前の写真を掲げた（次ページ

写真）。その当時、男性はFARCによって誤って誘拐されたと考えられていた。写真は、この国の残酷な出来事を思い出させ、平和への確信を揺るがすために使用されたのだ。ウリベの関心は、持続的な平和の構築というものからはほど遠く、むしろ嫌悪と恐怖をかき立てて自身の政治的地位を確固たるものにするように思える。

ウリベや他の反対派の代表たちと政府も参加する交渉は、国民投票の数日後から始まった。しかし、「黒人コミュニティのためのプロセス(PCN)」や先住民が率いる「人民会議」などの革新的なセクターからは、新和平合意案の交渉においてウリベとサントス（どちらもエリートとして見られている）が黒人や先住民た

ちの声を代表することは不可能だという懸念が表明されていた。

彼らは、合意が形成されるよう政府に促すために、全国的なデモを呼びかけた。革新セクターのいくつかのグループは、自分たちの自治制度の中で和平合意を履行することを提案した。

### より公正なコロンビアへ

遅れはリスクを高める。国民投票の前、約1,500人の戦闘員を擁するELNは、FARCの合意をモデルにして政府と交渉を行うことに同意した。この原稿執筆時点で、和平交渉が発表された。

しかし、この国は綱渡り状態である。国連など武装解除を監視する国

### 未来への挑戦

#### ▲反対派

FARCとの和平合意反対派は、10月の国民投票でかろうじて勝利を収めたが、それは和平プロセスにとって強烈な一撃となった。彼らはFARCにもっと厳しい条件を課すことを主張する。それは例えば長期の収監などであるが、FARCの交渉代理人の同意を得るのは非常に難しい内容だ。

#### ▲処罰

移行時期の処罰に関して合意された基本原則では、FARCが暫定的に議席を得て、それまでの犯罪については減免することが容認されている。恩赦については明確に禁じられているものの、減刑や服役に代わる別の方法が罪の償いとして提示されている。地域での奉仕活動やその他の処罰については、被害を受けた各地域と交渉する。

#### ▲再交渉

ウリベ元大統領率いる反対派は、FARCへの譲歩を減らすため、FARCと政府は和平合意の内容について再交渉を行うべきだと主張する。しかし、FARCは政府との4年間の交渉において多くの譲歩を行った。再交渉にはウリベ率いる反対派を含める必要が出てくるが、ウリベ派は交渉を行き詰まらせ、障害になると思われる。

#### ▲その他の武装勢力

その他の主な左派反政府勢力である国民解放軍(ELN)については、10月終わりに和平交渉について発表があったものの、和平協定は存在していない。ELNを和平交渉のテーブルに着かせなければ、FARCが抜けた地域にELNが入り込み、もうけになるコカの取引、違法な鉱物採掘、人々からの強要の機会を引き継ぐことになるかもしれない。この国の40%を超える地域では、法と秩序が欠如している状態だ。ウリベとつながりのある右派民兵組織も含め、その他の武装勢力が活動している。また、和平合意の停滞に失望したFARCの戦闘員が、他の武装勢力に加わる可能性もある。

#### ▲モニタリング

国連は、モニタリング、停戦合意、武装解除を監督する準備を整えている。だが、現在は不透明な状況が続いている。

#### ▲平和のための援助

米国が提案している4億5,000万ドルに上る援助策「平和なコロンビア」の予算が、大幅に削減されるかもしれない。米国議会の上下両院で承認されているが、2017年度の海外援助予算案の調整が完了していないため、米国の大統領選挙後に修正される可能性もある。そのほかの国から約束を取り付けた海外の支援も、他国へ回されてしまうかもしれない。

Fernando Vergara/AP/Press Association Images



国民投票で勝利した後、「反対」キャンペーンの代表のアリバロ・ウリベは、人々の感情に訴えてより大きな分断を図るため、13年前の写真を持ち出してきた。

際機関は待ちわびて状況だ。和平プロセスは、この国際的な支援、そして市民と FARC メンバーの安全を保証する効果的なメカニズムを失う危機をはらんでいる。

現在は困難な状況である。しかし、現在の政治的混乱を正しく処理できれば、平和に向けて前進できるだろう。サントスは、彼の和平提案擁護につながることは何でもするだろう。ウリベは、和平合意の「より良い」再交渉を求めて「反対」票を投じた600万人の意思をむげにすることはできない。

FARC の指導者たちは、和平プロセスの遅れが彼ら自身の統率力と部隊の忠誠心に影響を及ぼすことを認識している。そして、「賛成」あるいは「反対」に投票した、または投票に行かなかったにかかわらず、コロンビア国民はこの恐怖と不確実な

状況が終わることを望んでいる。

和平プロセスは重要だが、それは公正なコロンビアに向かう長い道のりの一歩にすぎない。国民投票は、現在のコロンビアの経済システムがうまく回っていないことや、国民が直面している深刻な環境問題について、国民の考えを尋ねる内容ではなかった。それは、50年におよぶ武装闘争の終結に限定した投票であった。

しかし、おそらくこの内戦からの移行プロセスを通じて、国の仕組みの変更に関してより深く掘り下げた土台作りが始まるだろう。

今回の国民投票の結果は、珍しい失敗ではない。1999年グアテマラでは、30年におよんだ内戦の終結に向けて和平交渉が行われる中で、憲法改正を問う国民投票が行われた。その際にはコロンビア同様に、

「反対」が半数以上を占めたが、和平プロセスは変わらずに進んだ。

過去4年間、コロンビア全国で、そしてさまざまなグループで、人々は平和と民主主義を作り出してきた。そんなすべての取り組みを、1回の国民投票が破壊することは許されない。コロンビアの和平プロセスは、国民投票の実施に関係なく、すでに始まっていたのである。◆

### タチアナ・ガラビート

コロンビア人のフェミニスト、人権活動家。

- (1) RUV stats analysed by Univision.com, <http://nin.tl/victims-numbers>
- (2) Colombian Peace Commission 2016, <http://nin.tl/CPCvictims>
- (3) Conciliation Resources, <http://nin.tl/inno-peace>
- (4) BBC <http://nin.tl/BBCpeaceC>
- (5) Basta ya! (Enough) Report 2013, <http://nin.tl/BastaYa-report>
- (6) Agreement on Rural Development 2014, <http://nin.tl/Borrador>
- (7) Women's Collective, Peace and Security 2014, <http://nin.tl/peace-pact>

(NI497 p10-13

Peace in Colombia? Hope and fear の翻訳)

翻訳協力：飯塚恵治／平野千鶴子

#### ボランティア翻訳者募集中

New Internationalist の記事の翻訳を通じ、NI ジャパンの情報発信活動をお手伝いいただけるボランティアの方を募集しています。資格や経験は問いません。詳しくは NI ジャパンブログをご覧ください。

<http://nijapan.blog.fc2.com/blog-category-15.html>

## NI JAPAN

ニュー・インターナショナリスト日本版

2016年11月号 No.143 「平和を模索するコロンビアの希望と不安」

\*今号は、New Internationalist No.497 November 2016 Peace in Colombia? Hope and fear からの翻訳です。

\*文中の通貨表記のドルや\$は、特にただし書きがない場合はUSドルを表しています。

ニュー・インターナショナリスト・ジャパン (有限会社 インティリンクス内)

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-42-7-301

電話 / FAX: 03-6873-5935

nij@ni-japan.com

<http://www.ni-japan.com>

本誌の内容を法律の範囲を超えて無断で転載・複製・複製することは、著作権の侵害となります。許諾については NI ジャパンまでご連絡ください。

©New Internationalist Japan 2016